

令和6年度 大阪市英語力調査 (GTEC) 結果の概要について

大阪市教育委員会

■ 大阪市英語力調査

- 目的 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。
- 実施テスト GTEC Core (ベネッセコーポレーションが提供する英語4技能型テスト)
- 調査対象 大阪市立中学校第3学年生徒
- 測定方法

技能	スコア	回答方法
聞くこと	210	マークシート
読むこと	210	
話すこと	210	タブレットによる音声録音方式
書くこと	210	記述式
計	840	

■ 調査結果

	GTEC 平均スコア					*1 CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合
	リスニング (聞くこと)	リーディング (読むこと)	スピーキング (話すこと)	ライティング (書くこと)	TOTAL	
大阪市平均	104.6	105.7	102.1	149.6	464.8	57.5%
*2 全国平均	105.0	100.0	99.0	151.0	457.0	—

*1 CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)
外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1は英検に換算すると3級程度。

*2 全国平均とは、過去3年間に全国でGTECを実施した学校(中3)の平均値

■ 令和6年度大阪市英語力調査の結果について

- 調査結果の概要
指標としている「CEFR A1 レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合」は、前年度から3.2ポイント上昇し、57.5%となりました。これにより、本市教育振興基本計画の目標値である「令和7年度末までに56%以上」を、1年早く達成することができました。
- 技能別の傾向
リーディングとスピーキングは、昨年度に引き続き全国平均を上回っており、本市生徒の強みとして定着しています。リスニングについても、全国平均と同等の水準を維持しています。
一方、前年度に全国平均より18.1ポイント低かったライティングは、今年度、全国平均との僅差まで大幅にスコアを伸ばしました。苦手意識のあった生徒が、主体的に英語を書こうとする姿勢へと変化しており、改善が見られます。
4技能の総合スコアでは、全国平均を7.8ポイント上回っています。
- 成果の要因と今後の展望
ライティング力が向上した要因としては、教員対象の指導力向上研修の実施や、効果的な指導資料の作成・配付などが挙げられます。これらの取組により授業改善が進み、生徒の学習意欲を喚起したものと考えられます。
今後も、すべての子どもたちが英語を使う楽しさや充実感を得られるよう、今後も英語教育のさらなる強化に取り組んでまいります。